

ひらか 連携ニュース

脳卒中の患者さんが、適切な時期に適切な場所で、病状に応じたリハビリをスムーズに受けられるよう、秋田道沿線地域連携協議会では、年3回、地域連携パスの内容や運用方法について検討を重ねています。
今回は、連携パスの運用と連携協議会での協議事項について、ご報告いたします。

秋田道沿線地域医療連携協議会の報告

日時：平成30年7月13日（金）16：00～17：30
場所：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 2階中央会議室
参加者：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、市立秋田総合病院、大曲厚生医療センター、雄勝中央病院、羽後町立羽後病院、平鹿総合病院（7もり 大越主任、連携室 大沢） 計25名

<協議事項>

1. 脳卒中地域医療連携パスの運用について

- 1) 平成30年4月1日より、「改訂版地域連携診療計画書」を使用しているが、運用上の問題はないか。 → 問題なし、現行通り運用する。

2. 各病院間の意見交換

1) 食事に関する情報について

- 回復期リハビリでは単位数が多いため、患者さんの体力がなければリハビリの継続が難しい。患者さんの栄養評価が重要になるので、特に、食事摂取量が低下している、たんぱく制限がある、嚥下障害がある等のケースについては詳しい情報がほしい。

(リハセン)

- リハビリサマリーにはSTの評価はあるが、実際に食べている形態がわからず、嚥下評価をひと通り終わらせないと食事を提供できない。食事形態、補助食品等について詳しい情報があれば助かる。

(羽後病院)

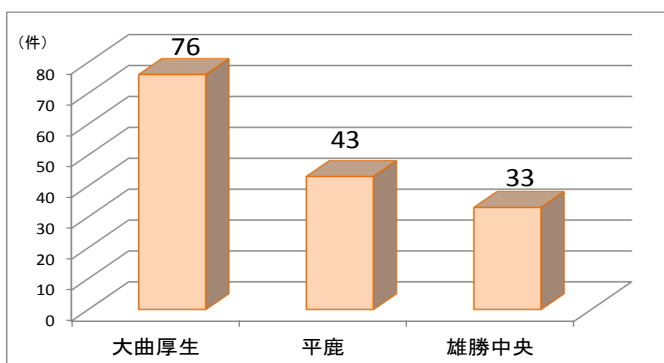
2) リハセンの循環器内科の診療体制について

- リハセンの循環器内科の診療が隔週となり、すでに9月まで予約がうまっている。循環器系に問題がある方は、転院前に調べておいてほしい。特に心臓超音波検査の結果をいただきたい。

(リハセン)

平成29年度 脳卒中地域連携パスの運用件数

1. リハセン



2. 町立羽後病院

